

マチに学び都市を楽しむ／まちづくりNPO

特定非営利活動法人 もうひとつの旅クラブ

2024 年度(第 23 期)事業報告書

## 1. 旅クラブが 2024 年度に取り組んだ事業実績

2024 年度は「大阪まち遊学」、「ご来光カフェ」といった、これまでに開発・実践してきた事業を継続しつつ、過去実践した「もうひとつの旅談義」を形を変えて復活させた。

「大阪まち遊学」では、まちなみではなく人や駅の構内といったユニークなところに視点をあてコース造成を図った。「ご来光カフェ」では、日替わりバリスタが珈琲を淹れる企画を実施、また何年かぶりにご来光クルーズを実施したことで来場者の満足度を向上させた。「もうひとつの旅談義」は登壇者を招いた講演形式から内容を変え、まちづくりの達人たちを押しかけ訪問し、互いの活動について情報交換することで知見を高めた。「もうひとつの旅」においては、群馬県前橋市を訪問。前橋デザイン Kommission (MDC) 日下田伸氏、ツナグ合同会社代表 本橋豊氏などまちのデザイン作りや市民参加型のまち活性化策の展開事例について現場視察とヒアリング・意見交換を行った。加えて行政の取組事例として前橋市産業経済部にぎわい商業課 (マチスタント) 田中隆太氏からも補助制度を活用した遊休不動産のリノベーションまちづくりの話を伺うことが出来て知見が高まった。

新聞、雑誌、ホームページ、ブログ、SNS における各活動についての情報発信も充実し、「ご来光カフェ」や「大阪まち遊学」などの集客にも結びついてきているといえる。

以下が本年度の主な事業項目一覧である。

- (1) 「ご来光カフェ 2024」の運営支援
- (2) 「大阪まち遊学 2024」の企画・実施
- (3) 「大阪川床・北浜テラス」の運営支援
- (4) 「もうひとつの旅 ～群馬県前橋市・沼田市・渋川市」の実施
- (5) 「もうひとつの旅談義 ～まちの達人への押しかけ訪問型勉強会」の実施
- (6) 情報提供、提言活動事業

これら事業の詳細や組織内評価分析を以下に報告する。

## (1) 「ご来光カフェ 2024」 1 週間だけの夜明け伝説 の運営支援

### 【事業趣旨・目的】

市民共有の資産である「中之島の水辺」を舞台に「都心の自然」という魅力の発掘を行い、水辺という公共的空間の過ごし方、使い方を多様な側面から提案してきたご来光カフェの企画・運営主体を長期間主体的に関わってくれているボランティアスタッフを中心とする「ご来光カフェ実行委員会」に委ね、後方支援や新スキームの検証、それらの調整過程を事業に位置付けて、6年目の実施となった。コロナの制限は無くなったものの、設備状況は変わらない中で、ご来光カフェは今回で19回目となる。

### 【事業内容】

- ・ 期 間： 2024年9月28日(土)～10月3日(木)
- ・ 営業時間： 午前 5:40～7:00
- ・ 場 所： 大阪水上バス淀屋橋港棧橋
- ・ 内 容： ①棧橋の設え、準備日程や各種手続きの指導や協力  
②カフェ期間の運営に対する協力  
③専用ホームページ (Facebook) による PR の協力  
④継続的な開催のための賛同者・ボランティアスタッフ募集・運営の協力
- ・ 実施主体： ご来光カフェ実行委員会
- ・ 協 力： 大阪水上バス株式会社、NPO 法人もうひとつの旅クラブ

### 【事業成果】

2024 年は新たな試みとして大阪で活躍するバリスタを招聘し、早朝より淹れたコーヒー（従来コーヒーも併用）を 50 名程度限定で無償提供、お客様には運営協力金のお支払いを依頼するかたちでの開催となった。また、大阪水上バス株式会社の力添えにより、ご来光クルーズを1日だけ復活運行できた。

開催期間は景観支障高層ビルの影響で早めの9月28日より10月3日までの6日間となった。期間中、雨天休み1日、開店したものの朝日を見られなかった日が2日あったにもかかわらず、来訪者数は296名で昨年の193名を大きく上回った。バリスタコーヒーと復活クルーズの効果により、天候のすぐれない週末に多くのお客様がカフェを楽しんでいただける結果となった。

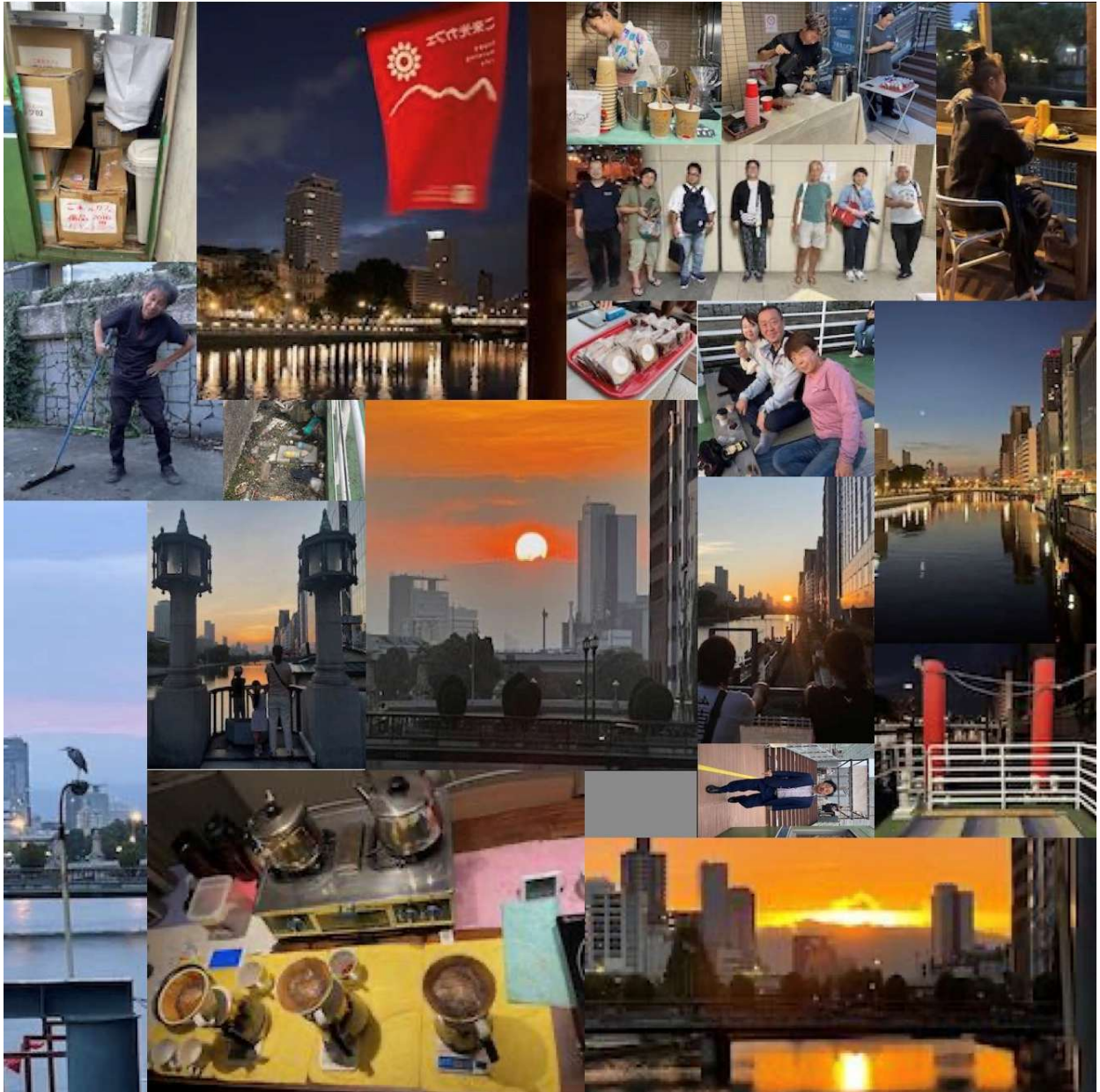
フェイスブックの開催告知（今年は9/10）については、リーチ7360件（昨年3714件、一昨年4112件）・シェア51件（昨年27件、一昨年19件）となりどちらも倍増、ページフォロワーは1523名（昨年1503名、一昨年1488名）にて微増となっている。

スタッフについて、実施の5日間で延べ62名（12名/日）、全日参加を申し出てくれる通称コンプリーターは6名で昨年より1名減となった。1日平均12名は適度な数で、特に人数調整をせずともスタッフは永年の経験を踏まえて自主判断で必要な日にシフトを入れてくれている。

このようにご来光カフェはお客様、スタッフとも成熟期を迎えており、とても安定した状況である。次年は20回の節目を迎え、現状のご来光カフェはひと区切りとすることが決まっている。水都大阪の水辺空間・時間の魅力発信においても集大成の年としていきたい。



【活動写真】



【主担当】岩田理事、岸田副理事長、磯上委員、協理事長



## (2) 「大阪まち遊学 2024」の企画・実施

### 【事業趣旨・目的】

自分が身近に生活するまち（居住地でも勤務地でも構わない）を旅人の目線で歩いてみる。普段なにげなく接しているそのまちにいままで気がつかなかった魅力を発見してしまう。

その魅力をその人の視点で紹介、自慢し、再び訪れたいさせる。旅人とジモティとの出会いを生み出す新たなコミュニティ・旅のプログラムを造成しまちの活性化を促進する。



### 【事業内容】

今年度の「大阪まち遊学」は2コースを実施。2コースとも照準をまち中ではなく、そこで活躍する人や駅の構内といった限定されたエリアをまちに見立てて造成した。

1コース目の「尼さんぼ」は初めて大阪から離れ兵庫県尼崎市の阪神電車杭瀬駅周辺にある杭瀬中市場内を訪問。店主の高齢化や火事による店舗の焼失により、徐々に廃業する店が多くなりつつある市場において、店主や近隣住民が緩やかに繋がりつつも、お互いの利益が循環するスキームを構築し、商店街を盛り上げようと画策している。そのベースには市場や周辺の住人の気さくで、おせっかいで、何でも面白がって取り組む気質が功を奏していることを知ることが出来た。

2コース目の「大阪駅令和の大改修を辿る」は2008年に実施した大阪駅構内まち歩きを西口エリア再開発のオープンタイミングに併せバージョンアップして実施。案内人が30数年の大阪駅設計・デザイン監修に携わっていた経験が無ければ語れないエピソードを惜しみなく発揮。参加者も過去最大人数となり大いに盛り上がった。また、マップも今回は冊子形式になり、西口再開発に関わる多くの情報が網羅され、コースのクオリティアップに繋がる内容であった。

### 【事業成果】

以下の2コースを実施した。

実施日	タイトル	参加数 (お客)	スタッフ 参加
11月16日(土)	尼さんぼ	4名	3名
12月7日(土)	大阪駅令和の大改修を辿る	23名	7名



【主担当】 協理事長、岸田副理事長、森副理事長、福田理事、米谷理事、岡本理事

### (3) 「大阪川床・北浜テラス」の運営支援

#### 【事業趣旨・目的】

北浜テラスは、今年は新規川床 1 店舗。

#### 【事業内容】

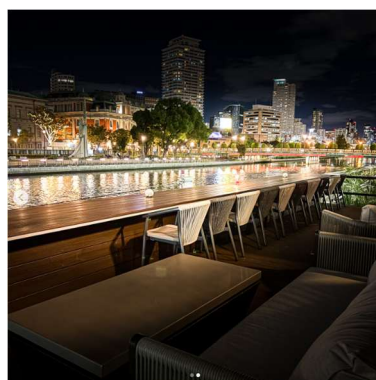
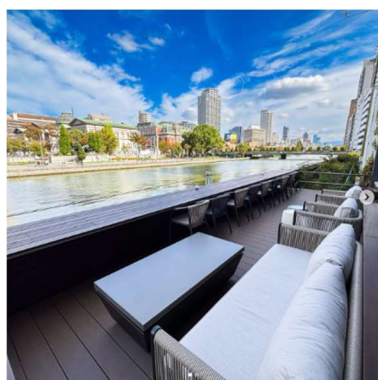
##### ①各種会議

- ・総会（2024 年 6 月 2 日）
- ・理事会（原則毎月 1 回）

##### ②テラスの設置・運営、テラス新設への支援

1 店舗の出店（初めての北浜 3 丁目への川床出店）

- ・ world tea labo（グランディール） 2024.2.17 グランドオープン



※写真は world tea labo instagram より

##### ③正会員、川床会員のヒアリング

2023 年 9 月～約 1 年半かけて、ビルオーナー：15 名（うち 2 名は店舗も兼ねる）、店舗：13 名、役員・協力会員：5 名、正会員：7 名についてヒアリングを実施。

現在の協議会運営の現状について（情報提供）、協議会運営への感想や関わり方、今後協議会全体で取り組みたい新たなテーマ（現在の運営状況、困っていること、今後個店&全体で取り組みたいこと）など。

##### ④会員懇親会の開催

2025.2.18@Bistro bar 真琴

##### ⑤大阪府との協定書関連協議

以前から大阪府と締結していた 10 年間の協定書について、準則特区の制度を活用すれば今後必要なく廃止し、河川占用許可の許可条件として追加する方法をとりたいとのことで、その内容を協議、合意した。

#### 【主担当】 泉理事、福田理事

（泉は北浜水辺協議会の理事、福田は監事を兼ねる）

## (4) 「もうひとつの旅～群馬県前橋市・沼田市・渋川市」の実施

### 【事業趣旨・概要】

群馬県の県庁所在地、前橋市がいま「アツい」のだという。東京駅から新幹線と両毛線を乗り継いで1時間半の人口33万弱の街は、かつては県全体の絹輸出拠点として大いに繁栄したものの、中心市街地の“まちなか”はシャッター街化が進行中となるところであったが、実はここ10年余り、“まちなか”から前橋が変わりつつある、という。いま前橋に何が起きているか。何に、いかに取組んでいるのか。“まちなか”の商店街にオフィスを構える一般社団法人前橋デザインコミッション(MDC)の事務局長兼企画局長の日下田伸さんのほか、ツムグ合同会社代表の本橋豊さん、前橋市にぎわい商業課の田中隆太さんにお話を伺い、大小9つの商店街を擁する中心市街地を巡ってその取組みの成果を視察した。

### 【事業内容】

- ・日 時：2024年6月22日(土)～23日(日)
- ・場 所：群馬県前橋市(1日目)、沼田市、渋川市(2日目)

#### ①1日目 前橋市の取組みを知る

前橋の“変革”の象徴と言うべき建物がある。日本有数のアートホテルとして知られる「白井屋ホテル」だ。もとは300年の歴史を誇る老舗旅館で、1975年にホテルに建て直したが2008年に廃業、以後放置されたままになっていた。2014年に私財でこれを買取り、6年半かけて再生した人物が、前橋出身の実業家・メガネブランド「JINS」を運営する株式会社ジズホールディングス CEOの田中仁さんである。

「前橋はよいものが育ちそうな大地である。やるべきはよそから大樹を持ってくることではなく、大樹に育ちそうな芽吹きを応援すること」との意味をこめた「めぶく。」というビジョンを共有し、2016年からは「前橋アーバンデザイン」を官民協働で推し進めてきた。これは前橋という都市のほどよい規模と環境のよさを活かし、①にぎわいや利便性と居心地のよさを両立、情報通信技術を活用した便利で豊かな生活ができる街、②住宅街やオフィス街のような単独用途の街ではなく、住む・働く・商う・学ぶなど複数の用途を持たせ、徒歩圏で生活が完結、一日を通して活気がある「住みたい街」、③地域固有のあらゆる資源を活用し、前橋らしさを感じられる街、を目標とした構想である。

いま商店街では個性的な店のオープンが年を追うごとにじわじわと増え、起業家が立ち上げた市民参加型のまちづくり拠点はマーケティング・プラットフォームとして市民によるまちづくりを企画段階からサポートしつつ実現させ、実店舗をオープンさせるまでに至った。また、白井屋ホテルとその近くの既存の美術館「アーツ前橋」に加え、“アートレジデンス”「まえばしギャラリー」の2023年オープンにより、徒歩で現代美術を観て回れるエリアが完成した。

いまデザイン思考を取り入れたまちづくりの成果はまちなかのそこかしこで芽吹き、育ち始めている。以下はその芽吹きを青葉の繁る大樹にまで育て上げようと活動する3人の取組みである。

<一般社団法人前橋デザインコミッション(MDC) 事務局長兼企画室長・日下田伸さん>

中央通り商店街に事務所を構えるMDCは、民間主体によるまちづくり指針「前橋アーバンデザイン」の推進母体として民間会費により2019年に発足。前橋市が官民連携によって策定した

前橋ビジョン「めぶく。」の機会創出や支援を行う団体で、まちなか 25ha を含む前橋アーバンデザインエリア 158ha を対象に、事業のマネジメント、街の開発と運営、ブランドマネジメントをサポートし、民間・行政・教育機関の共働を促す活動をしている。

馬場川通りの遊歩道は MDC が主体となって手がけたプロジェクトの一例で、通り沿いを流れる小さな馬場川に木製のデッキを張り出してベンチやカウンターを取り付け、夜間はライトアップして親水空間を創り出したほか、イベント用の小さなステージや海外の有名デザイナーがデザインしたトイレを設置した。これによって人通りの少なかった馬場川通りはのんびりと歩くにふさわしい気持ちのよい小径になり、子供づれの若いファミリー層などこれまでにない人の流れを生み出している。MDC はプロジェクトのスタートから着工に至るまでの間、大小の社会実験を繰返し、地元住民を中心にプロジェクトに関心のある人々に向けてまちづくりセミナーやワークショップを実施、イベントを開いてまちの使い方を市民とともに考え、整備計画を練り上げた。

訪問当日はこの馬場川通りで前橋名産のバラの花を安く販売する Poppin Rose Market が開かれ、買ったバラを抱えて歩く人たちの姿が通りのあちこちで見られた。ほかにも馬場川通りを軽く掃除して除草や散水を行い、淹れたてのコーヒーを味わいながら街の風景を眺め、新鮮な朝の空気を吸い込み、友達をつくる「clean& coffee club」など、定例の催しを開いて幾通りものまちの使い方を提案し、市民のライフスタイルに影響を与えている。

#### <前橋市にぎわい商業課 マチスタント・田中隆太さん>

田中さんの肩書の「マチスタント」とは「まちのアシスタント」という意味である。まちなかに増えた空き物件とまちなかでやってみたいことがある人をマッチングし、出店先を探すリノベーションまちづくりの強力な助っ人だ。マチスタントとしての活動は、まずは空き物件情報の収集。空き物件をマーキングし、周囲の人にヒアリングして所有者を探し出し、活用する意向の有無を確認。リノベーションのハードルを下げるために修繕や片づけ費用の補助制度も市は用意している。そして、前橋で何か始めよう、創業しよう、という人の話をじっくりと聴き、2~3時間かけて一緒に街を歩く。歩きながら出店希望者がどんなことに興味を持っているか、さりげなく反応を観察したりもしている。途中で知り合いに出くわしたら引き合わせて、今度前橋で店を出す(かもしれない)人はどんな人か、これから店を出す(かもしれない)前橋の人はどんな人か、互いにその人柄や雰囲気を知ってもらう。創業希望者とまちの人をつなぐこともマチスタントの重要なミッションである。そんなわけで田中さんは前橋市の職員なのに市役所に居ることはあまりない。7:3の割合でまちなかに居るといふ。

#### <ツムグ合同会社代表・本橋豊さん>

大手電機メーカーで勤務していた本橋さんは、50歳で早期退社、故郷前橋に帰ると地域活性化に特化したマーケティング会社ツムグを起業した。同時に、まちづくりに参画したい市民の団体「前橋リビングラボ」を立ち上げ、拠点となるコワーキングスペースを中央通り商店街に開設した。前橋は起業のサポートが手厚く、4つの補助金をフルに活用したという。

本橋さんは「市民による市民のための市民が楽しむまちづくり。」を合言葉に、まちづくりに市民が参加する機会を作り、ハードルを下げるために市民参加型のマーケティング・プラットフォームを立ち上げた。登録制で会員は160名。

地域活性化には「食」は強力な武器になる。団体の第一弾プロジェクトのテーマは、「あんこ好



きが集まって、街を元気にしよう！」というもの。テーマに関心がある市民が集まって企画を立て、実際に商品の試作やテストマーケティングを行い、ラボの支援を受けながら商品化や店舗開設を実現する。この一連の流れをパッケージ化したのがラボの“売り”である。

あんこは前橋の名物でもなんでもなく、あんこなら全世代にアピールできるから、という理由でテーマにしたのだが、5歳の子供から81歳のシニアまでのあんこ好き市民が集まった。あんこのプロから話を聴き、あんこの炊き方を習い、あんこのマーケティングや商品開発をして、毎回20人ほどが集まり、計12回のワークショップを実施。テスト営業を経て2023年にあんこ専門の実店舗「あんこもん」をまちなかの弁天通り商店街にオープンした。

現在、あんこもん企画の参加者から派生した第二弾プロジェクト「お料理好きのマダムが、御惣菜店を開く！」が進行中である。まちなかで御惣菜店の開業をめざしているという。



Poppin Rose Market



マチスタント田中氏



馬場川通りの遊歩道



MDC 日下田氏



あんこもん店舗前



白井屋ホテル

## ②2日目 群馬の自然と地形を知る

2日目は都市部を離れて県北部の沼田市、赤城山の裾野を巡る「利根沼田望郷ライン」をレンタカーで走った。窓外には日常的によく食卓にのぼる群馬県産の野菜畑の緑が鮮やかで、「貝野瀬ビューポイント」では草津白根山や谷川岳などの美しい山並みを背景に果てしない農地が広がる景色を、「望郷ラインビューポイント」では赤城山の全景を堪能した。なお、“沼田名物”の河岸段丘は地質学的にも貴重で注目度が高く、特に片品川ぞいのそれは日本一美しい河岸段丘と言われ、何万年、何十万年という歳月をかけて地球が生み出したアートとでも言うべき壮大なスケールで一同圧倒された。2023年9月にオープン、河岸段丘を眺めながら食事やお茶を楽しめる「河岸段丘カフェ」も地形マニアたちに人気だ。

その他、水の浸食によってできた“東洋のナイアガラ”「吹割の滝」、いずれも磯崎新設計の、異世界のような山の頂にそびえる「県立ぐんま天文台」、榛名山麓の高原の緑と大空に映える「ハラミュージアムパーク」などを訪れ、群馬の雄大な自然の魅力を体感した。最後に伊香保温泉の石段の温泉街を散策した。

参加者：泉、岩田、岡本、岸田、福田、藤原、森、米谷、脇

【主担当】森副理事長、岡本理事



## (5) もうひとつの旅談義～まちの達人への押しかけ訪問型勉強会の実施

### 【事業趣旨・目的】

従来、登壇者を招き参加者を募集するセミナー形式によるイベントは何度か実施してきたが、一方的な講演の聴講に終わりがちで、参考になった情報を活用して新たな企画や活動のトリガーに至らなかったのではと振り返る。

今回はまちづくりの達人たちを訪問し、お互いの活動内容をインタラクティブな形で情報交換することで、互いのスキルアップの相乗効果をもたらす方法を模索する目的で今までとは異なる旅談義を実践してみた。

### 【事業内容】

「もうひとつの旅談義の実施 押しかけ訪問型 勉強会・交流会の実施」

今回押しかけた杭瀬エリアは、先に「大阪まち遊学 2024」のコースとして実施。その時の立ち寄りポイントをなぞった形での押しかけ勉強会となった。

日時：2024年11月30日（土） 15:00～17:30

訪問先：(株) 地域環境計画研究所 杭瀬中公園管理棟 代表 若狭健作 氏

参加者：5名（旅クラブメンバー）

引率先：杭瀬中市場

- ・市場食堂 石原正明 氏（杭瀬中市場共同組合副理事長）
- ・好吃食堂 福田祥子 氏（女将 コミュニティナーズ）
- ・二号店 若狭健作 氏（地域環境計画研究所 代表取締役）

今井材木店 今井元一 氏（今井材木店 代表取締役）

あざらし洋品店 かなこ 氏（当日店番）

店主が高齢化で廃業する店舗が徐々に増え始め、数年前には市場の一部が火災で焼失するなど、逆風が吹くなか、市場の存続を維持し昔の賑わいを復活させるため活動しているゴキゲンなメンバー達が、市場の中だけでなく、地域の住民とも緩く繋がりながら互いに売上を循環させる Win-Win のスキームを構築。他所からもこぞって人が集まる魅力あるエリアにするため活動している方々を紹介頂いた。

今後は、先に押しかけ、情報交換・交流を図ることで、「大阪まち遊学」のコース造成やその他新しい事業企画のヒントに繋がるよう意識して継続してゆきたいと考える。



古書店 二号店



杭瀬公園管理棟



杭瀬中市場

【主担当】 協理事長、森副理事長、泉理事、福田理事、岩田理事

## (6) 情報提供、提言活動事業

(1)～(5)の他にも、まちづくりNPOとして、大阪のまちの魅力を再発見・開拓し、多くの人々と共有するために、各種情報提供や提言活動への参加などを展開した。

### 【メディア掲載（新聞、出版、他）】

① 沖縄タイムス（5月19日）

- ・ 論壇「育てる島 伊江島に学ぶ～持続可能な観光の美しさ」

② AERA（5月27日）

- ・ 「梅田と渋谷でなぜ迷うのか～東西2大ダンジョンの謎を解明する」

③ 大阪大学 卒業生メールマガジン「OUMail News」Vol.145（11月22日）

- ・ 「本業、プロボノ双方で大阪の街づくりに半生 万博を機に「中之島の魅力を国内外に発信」

[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/alumni/pr/alumni\\_interview/20241122](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/alumni/pr/alumni_interview/20241122)



左上：沖縄タイムス（5月19日）

右上：AERA（5月27日）

右下：大阪大学卒業生メールマガジン  
（11月22日）



【SNS 等による情報提供・共有】

大阪まち遊学およびご来光カフェ等各種イベント開催時には、ブログのみならず Facebook、Instagram などにおいて、メンバー各自による発信が行なわれている。

①旅クラブ公式 HP の運用

旅クラブの活動を幅広く周知するため、2007 年に公式 HP ( <http://tabiclub.org/> ) を開設し、2021 年には Web システムを大幅にリニューアルした。今年度も情報プラットフォームとして運用した (図 1)。

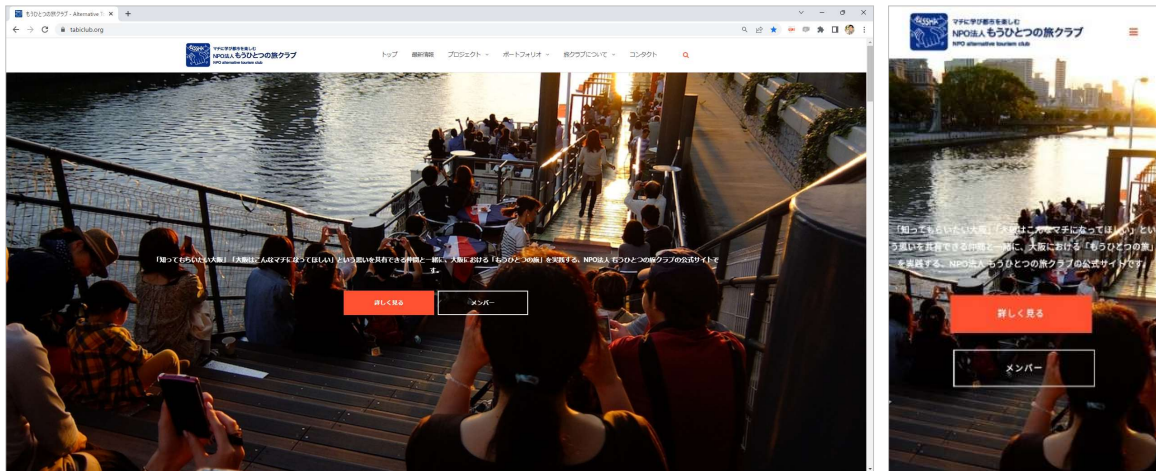


図 1 旅クラブ公式 HP (左：PC 版；右：スマホ版)

②旅クラブ公式 SNS の運用

旅クラブの情報発信メディアとして、上述した公式 HP に加えて SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) を運用している。

2011 年より X (旧 Twitter、ご来光カフェ)、2011 年よりフェイスブック (ご来光カフェ、大阪まち遊学。大阪まち遊学は 2021 年よりもうひとつの旅クラブ公式として大阪まち遊学を含む旅クラブの様々なコンテンツを紹介するページに変更)、2018 年よりインスタグラム (もうひとつの旅クラブ、ご来光カフェ)、2021 年より X (旧 Twitter、もうひとつの旅クラブ)、を開始しており、今期も引き続き、運用した。

各 SNS の URL とフォロワーなどの情報を以下に示す (図 2)。

- ✓ X (もうひとつの旅クラブ) 79 フォロワー (前年比+3) <https://twitter.com/osakatabiclub>
- ✓ X (ご来光カフェ) 729 フォロワー (前年比+16) <https://twitter.com/goraikocafe>
- ✓ フェイスブック (もうひとつの旅クラブ・大阪まち遊学) サイト「いいね」555 件 (前年比+3) <https://www.facebook.com/osakaopentown>
- ✓ フェイスブック (ご来光カフェ) サイト「いいね」1504 件 (前年比+148) <https://www.facebook.com/goraiko>
- ✓ インスタグラム (旅クラブ) 130 フォロワー (前年比+12) osakatabiclub
- ✓ インスタグラム (ご来光カフェ) 365 フォロワー (前年比+65) goraiko.cafe



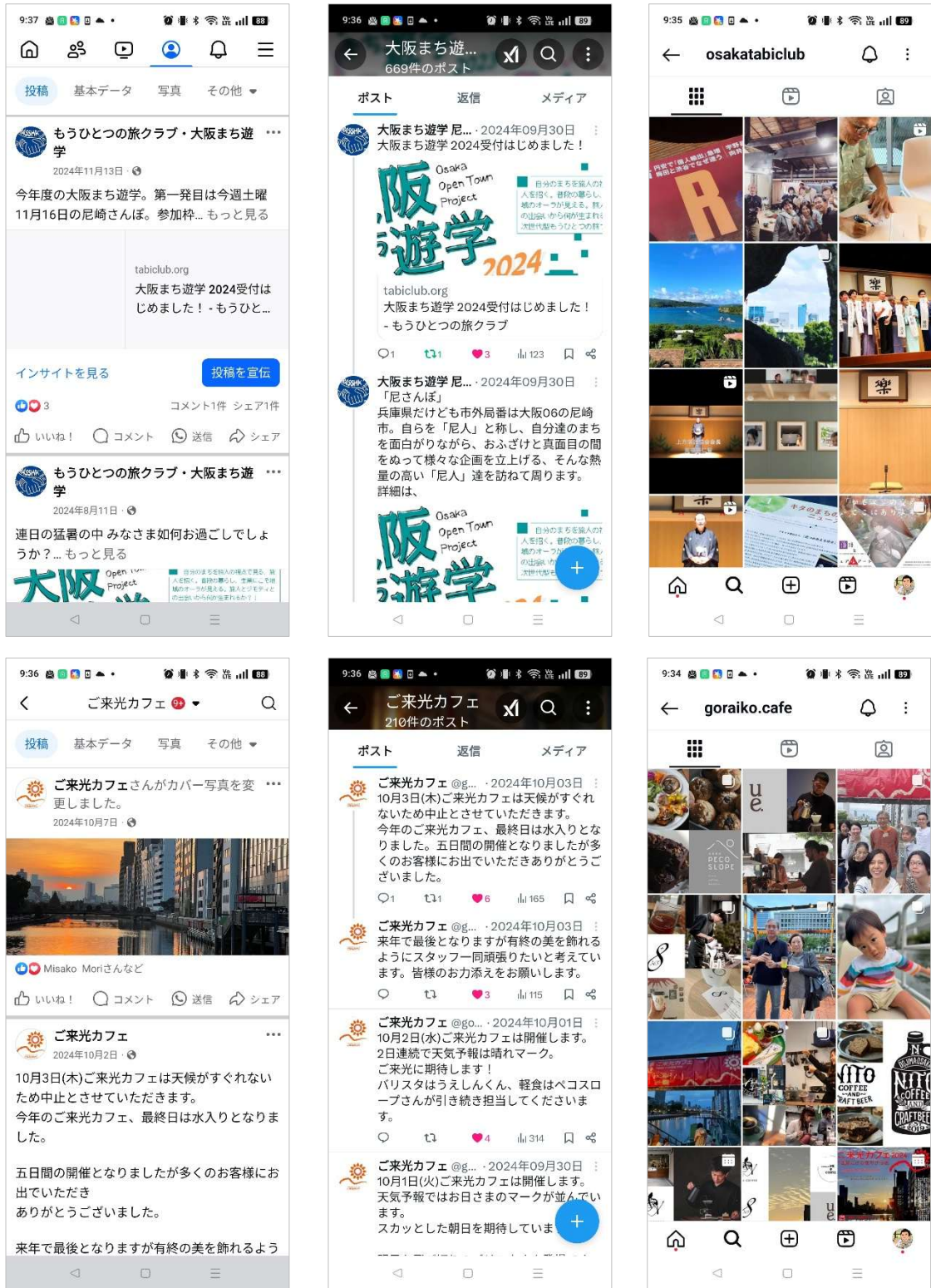


図 2 SNS (上段：もうひとつの旅クラブ公式；下段：ご来光カフェ。  
左列：フェイスブック；中列：X(ツイッター)；右列：インスタグラム)



③旅クラブメンバー内の情報共有プラットフォームの整備

旅クラブメンバー同士が情報にアクセスしやすくなるようなプラットフォームの整備を試みた。

- ✓ 大阪まち遊学やもうひとつの旅など、同じイベントに参加しながらも、メンバー同士が離れた場所で連絡しあったり、コメント、写真、動画を手軽に共有するツールとして、LINE（ライン）のグループを 2023 年に作成し、今年度も運用した。グループチャット上にグループを作成することで、LINE グループの参加者同士が LINE 上の友達でなくても参加できるようにした。
- ✓ 旅クラブ活動では、記録や記念のために写真撮影をする機会が多い。撮影した写真の共有を再利用のしやすさを含めてどうするか、が課題。そこで、旅クラブのグーグルアカウント上のグーグルフォトで共有することを 2023 年より開始、今年度も運用した。

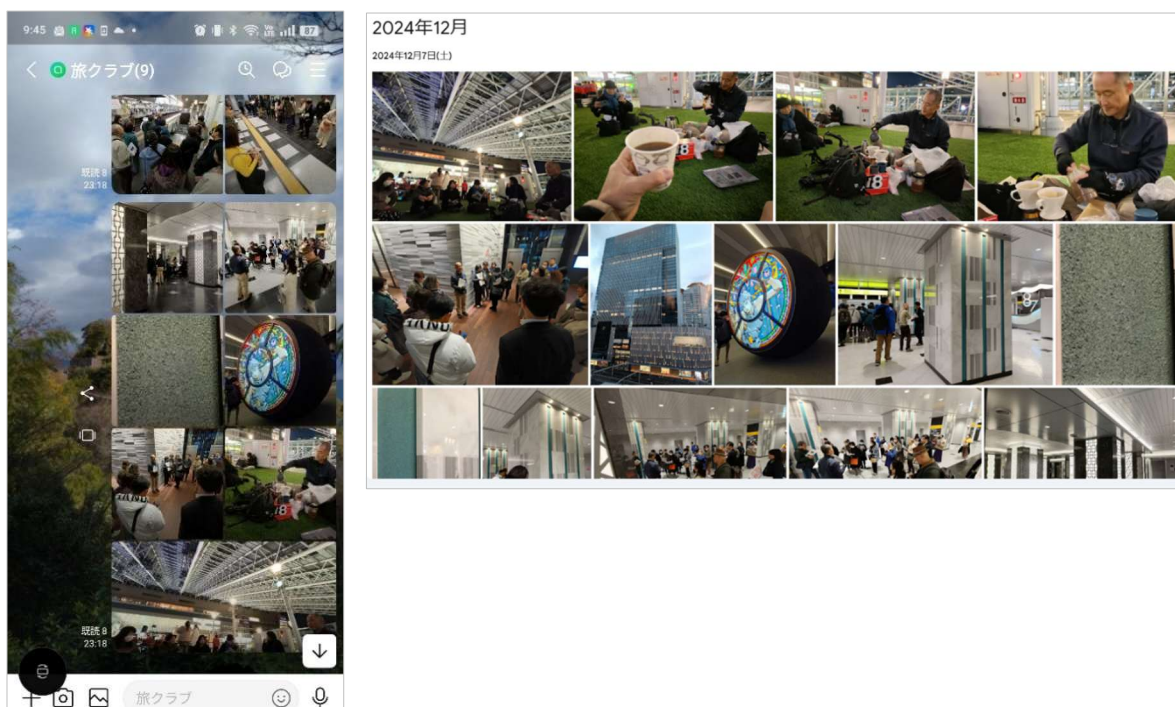


図 3 内部情報共有プラットフォーム（左：LINE グループ；右：グーグルフォト）

【主担当】 福田理事、藤原委員、磯上委員

## 2. 旅クラブの組織活動(組織活動の充実と強化)と財源確保

### (1) 組織活動、市民参加による事業促進

#### ①会員の拡大

大阪まち遊学の参加者との交流やご来光カフェの運営ボランティアスタッフの充実などを通じ、当 NPO の活動主旨に賛同いただける方の発掘に努めた。また今年度は、退会者が 2 名あり正会員は 16 名となったが、当 NPO の活動に関心を持っている方は着実に増えていると考える。

#### ◇2024 年度の会員数

- ・正会員 16 名（前年度比 2 名減） 退会（水谷、武内）
- ・賛助会員 0 名（前年度比増減なし）
- ・名誉会員 3 名（前年度比 2 名増）

#### ②組織活動

昨年度と同様に運営委員会を月例で開催し、大阪まち遊学、ご来光カフェ、その他特別な事業の企画・実施方策等を協議した。

#### ◇総会（第 22 回）の開催

- ・開催日時：2024 年 3 月 17 日（日）15 時 30 分～16 時 30 分
- ・会場：からほり悠（大阪市中央区谷町 6-13-31）
- ・出席：13 名（うち書面出席 5 名）欠席 5 名
- ・議案：2023 年度事業報告及び決選報告  
2024 年度事業計画及び収支予算の審議  
役員改選

#### ◇理事会の開催

2024 年 3 月 17 日（日）16 時 30 分～17 時 00 分 8 名参加にて行われた。

#### ◇運営委員会の開催

以下のとおり、理事・会員混合型の運営委員会を開催し、各事業の企画・運営協議を行った。

4 月 20 日（日）8 名参加    5 月 25 日（土）7 名参加    7 月 7 日（日）6 名参加  
8 月 10 日（土）8 名参加    9 月 21 日（土）5 名参加    1 月 18 日（土）7 名参加  
2 月 22 日（土）7 名参加

### (2) 財源確保の充実と課題

2024 年度は収入面では、ご来光カフェ 大阪まち遊学など定着化した自主プログラムをプログラム毎に収支バランスを取る原則で着実に継続し、支出面では管理費を最大限圧縮することにより、運営の基盤となる定常的な経費をまかなうことができた。

今後も多様な活動の継続や体制の強化をしていくためには自主事業の更なる魅力向上を図っていく必要がある。